



先日、紹介しましたが、この度、東京の北野生涯教育振興会様から教育研究助成金を頂きました。ありがとうございました。**感謝・感謝・感謝**です。


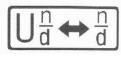
その助成で、分数計算など初等的な計算がすべてできる電卓を購入することができました。授業で活用し、また希望する皆さんには、お貸しして、算数・数学を学び、活用していくために必要な基礎的計算力を身につけて頂きたいと思います。ちかごろ、ICT の活用と言うことがよく言われますが、映像として見せるだけ、繰り返しドリルができるだけという気もしています。同じように、アクティブ・ラーニングについても、おたがいに話をするだけというきらいもあります。数学は、長い年月を掛けて、完璧で高度な体系が築き上げられてきていますので、それをそのまま教え込むというのが、これまでの教育で、効率的ではあるのですが、その意味を理解できている人は少数です。先日、講演に来られた前文科省次官の前川喜平氏も、高校のレベルで数学を理解できているのは、半分以下と言われていました。それでは、わかったという実感を持ちながら学習して行くにはどうすれば良いか?これに答える一つの方法が ICT 機器としての電卓の活用と考えています。どのように活用していくか、実感して頂けるような授業内容を工夫していきますので、是非、授業に参加し、体験してみてください。電卓を活用して、真のアクティブ・ラーニングをやってみましょう。そこで、今回の基本計算向けの電卓の使い方・機能を紹介していきます。


右が TI-15 という今回導入した電卓の操作面です。下段中央・右端には電卓の見慣れたキーが並んでいます。が、その他、特に黒い所とその隣は見慣れないキーです。これらが分数に関するキーです。


-  が分子から分数を入力するキー
-  が分母から分数を入力するキーです。


なぜ二通りの入力の仕方があるかという、数楽通信第二号「May the forth」で少し触れましたが、英語では分数は分子→分母の順に読むのです。一方、日本では分母→分子ですね。ですから、どちらにも対応できるよう二つキーがあるのです。


Unit は単位と言うことも、「1 から始める分数」で話しましたね。

 は**帯分数の整数**部分の入力キーで、 は**帯分数⇔仮分数**の変換キー。

 ば simple (シンプル)の略ですから、見当が付きそうですね。そう**約分**です。

 は factor (ファクター) 要素から数学では**約数**。最近ではコロナの X-factor などと使われています。約分の際の約数が、このキーでわかります。

 は Integer が整数で、割った**商を整数**とし、**余りを出す割り算**です。
時間 → 分 → 秒 の変換は、このキーでできます。

 は分数が Fraction , 小数が Decimal ですので **分数⇔小数** の変換キーです。



これで、分数の計算は OK 。自分で問題を考え、練習して、分数をマスターしましょう。